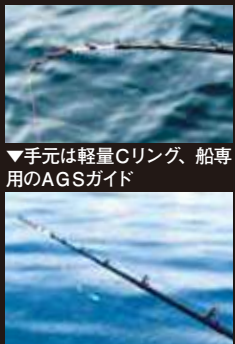


ダイワテクノロジーの結晶 極鋭ヤリイカEX

「まるで初期のサイズよ」と船中初の2杯掛け
▼穂先には軽量NリングRフレームAGS

●すでに絶大な支持を受けている「極鋭ヤリイカAGS」に続き、ダイワテクノロジー進化の証となるべく登場したのが「極鋭ヤリイカEX」だ。穂先はSMT、フレームに小型のCリング、Nリング採用でAGSガイドを小径化。これにより感度はもちろん、穂先の曲がりやすさになり、より繊細なアタリを表現できるようになった。素材はX45で強化したSVFナノプラス採用でシャープなシャクリと多点掛けにもビクともしない強度とパワーも持ち合わせている。ホールドしやすいグリップ、エアセンサーシートの感触も秀逸だ。11月発売予定。



▼手元は軽量Cリング、船専用のAGSガイド

アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	適合クランプ サイズ	カーボン 有率(%)	メーカー希望 本体価格(円)
82-175	1.75	1	175	125	1.1/13.7	80-150	SS	97	79,800
91-165	1.65	1	165	120	0.9/13.7	80-150	SS	97	79,000

シーボーグ500JS SEABORG 500JS

●メガモンスター「シーボーグ500」シリーズに新たに仲間入りしたのがパワー重視のシーボーグ500JPとスピード重視の同JSの2機種。今回はヤリイカ用として後者を持参した。JOGパワーレバー、マグシールド、マグマックスなど基本性能は充実。発売中。

SEABORG500JS

ヤリ・スルメイカ釣りにおけるメリット

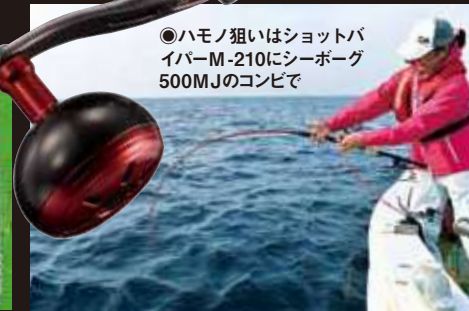
- ①巻き上げスピード(210m/分)が速いので回収手返し抜群→釣果に直結
- ②MAGMAXモーター搭載で巻き上げパワーはお墨付き
- ③フォールブレーキ搭載で中層反応のイカの触りを直撃



▼視認性に優れたドット液晶
■SPEC:ギア比3.7、自重825g、最大ドラグ力23kg、メーカー希望本体価格79,000円

快適イカ仕掛けMDスティック SPL&MD70Sタイプ

●SPL(スパイラル形状)のプラズノを使用したイカ仕掛け(11センチ5本、7本で全6種)と、ヤリイカ用コマセツノ中空ボディ赤白ガス糸巻きのツノ(70ミリ、全4種)も新発売された。



●ハモノ狙いはショットパイパーM-210にシーボーグ500MJのコンビで

は3キロ級のマダイとメダイ、4キロ級ワラサと絶好調だった。肝心のヤリイカは潮が速く、澄み切った状態で乗りが今一つ

だったが、移動することにボツボツとは掛かってくる。「2本とも軽いのももちろんですけど、感度がいいのには驚きました。メタルトップだけでなくガイドと素材のおかげでもあるんでしょうね」と竿作りでも名をはせるyaccoさん。2人そろって十数杯を釣った午後2時に沖揚がり。中小型ながら初物のヤリイカを大事にクラーへ収め、次回の釣行を約束するのだった。



▲マダイは3キロ級だった
▼この日はワラサ2本



●晴天ベタナギの釣り日和。2人とも今期初のヤリイカ釣りをタップリ楽しんだ

小川泰子、田淵雅生 極鋭ヤリイカで初期の小型攻略

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.52

ヤリイカ最前線

at 相模湾腰越港出船

●秋から冬に盛期を迎える釣り物が、今年は全般的に遅れがち。相模湾のヤリイカも同様、例年なら盛期を迎えているはずだが、11月に入っても中小型中心の初期のパターン。今回は小川泰子さんと田淵雅生さんがダイワの新製品「極鋭ヤリイカEX」を持参して今期のヤリイカに初挑戦した模様をお届けする。



▼手前が82、向こう側が91。▲中小型でも乗りが分かって釣れると楽しい



▶「小さいけど、アタリは分かったわ」とyaccoさんが最初の乗りをとらえる



◀新発売SPL形状のプラズノ。新色玉露(左から2番目)にも注目

ヤリイカの名手、yaccoさんこと小川泰子さんと田淵雅生さんが相模湾のヤリイカへ釣行したのは10月31日、乗船したのは相模湾腰越港の森健丸。例年ならすでに数回は釣行している2人が、そろって今期初釣行を迎えたのがこの日。あいさつ代わりに漏らした言葉は、「ようやくシーズンインという感じですね」である。ともあれ、晴天ベタナギの釣り日和、久しぶりのヤリイカ釣行もあって楽しそうに出船準備にとりかかるのであった。2人が持参したのはダイワから新発売となった「極鋭ヤリイカEX」、2アイテムをそれぞれが使用、今シーズンの腕慣ら

しといったところだろう。7時に出船し、城ヶ島沖の140メートルダチで釣り開始。yaccoさんは82・175でフランコ、田淵さんは91・165で直結仕掛けだ。ミヨシにはもう1本、ハモノ狙いのタックルも用意してある。始めのうちは、「あっ、触った」「あっ、掛からない」を繰り返していた2人だったが、「あまり強くシャクらないで、止めの時間を作ったほうがいいみたい」と言いながらyaccoさんが巻き上げに入った。取り込んだのは胴長15×20センチのヤリイカ2杯。やはりシーズンは遅れ気味、今日は中小型メインとなりそうだった。続いて表情を緩めたのは田淵さん。「SMT、小径リング採用のAGSガイド、その他ダイワの最新テクノロジー満載の竿です。感度ではどの竿にも負けませんから、小型のヤリイカであろうとも確実に乗りをとらえます」直結は不利ともいえる状況ではあったが、マルイカのような釣り方に変えてすぐに2杯掛けを達成。小型のヤリイカが確保できたところでハモノ狙いの仕掛けを下ろす。しばらくして掛かったのは3キロ級のワラサ。この日